

Subject: Fwd: Fwd: Re: Fwd: Re: Fwd: Re: 【ご相談】スペック・イン資料に係る大使館への共有
From: kenichi Moritani <moritani-ken@n-koei.jp>
Date: 2018/01/15 14:36
To: Ippei IWAMOTO <a5825@n-koei.co.jp>
CC: a7937@n-koei.co.jp >> 倉持 卓弥 <a7937@n-koei.co.jp>

岩本課長 殿

能登さんからの本邦技術活用に関するご意見を転送致します。
また、下記の内容を参考に研究開発の進捗表に加筆致しましたので送付致します。
進捗率は適当に30%としております。

よろしくお願い致します。

森谷

----- Forwarded Message -----

Subject: Fwd: Re: Fwd: Re: Fwd: Re: 【ご相談】スペック・イン資料に係る大使館への共有
Date: Mon, 11 Dec 2017 18:10:45 +0900
From: Wako NOTO <noto@nccnet.co.jp>
Organization: Nippon Civic Consulting Engineers Co., Ltd.
To: 森谷 謙一 <a7537@n-koei.co.jp>

FYI

----- Forwarded Message -----

Subject: Re: Fwd: Re: Fwd: Re: 【ご相談】スペック・イン資料に係る大使館への共有
Date: Sun, 13 Aug 2017 15:39:14 +0900
From: Wako NOTO <noto@nccnet.co.jp>
Organization: Nippon Civic Consulting Engineers Co., Ltd.
To: Ippei Iwamoto <a5825@n-koei.co.jp>
CC: 佐野 祐一 <a6332@n-koei.co.jp>, 山下 佳久 <yamashita-ys@n-koei.jp>

岩本様

お疲れさまです。
能登の理解不足かもしれませんが、下記の山下さんの文章から、ナガトウंगाはステップではないのでしょうか？

頂いた条件から案を作成してみました。概要は下記のとおり。
全てが採用できるとは思いませんが。
詳しくは明日、佐野さんが来比した際にも相談します。

- 1) 不安定な地山（全線？）における前方探査技術を規定
- 2) 道路の沈下対応にはパイプルーフ、施工精度を規定。
<http://www.piperroof.jp/01kouhou2.html>
- 3) カリマティ層（不安定な地山）にはAGF
端末事前撤去式→パイプ除去時の地山変位を抑制
無拡幅→掘削範囲無拡幅で地山への影響を抑制
- 4) 掘削性能の良いドリルジャンボを採用（古川製などが採用されるよう規定）。
- 5) 全線無発破？少なくともカリマティ層は無発破で、機械掘削を採用。
自由掘削機能などを規定し、大断面自由掘削機を採用。
→避難坑も同じ。
- 6) インバーター式のJFはお勧めできない。
 - ① 節電効果はあり、創発制は良いものであるが、日本では殆ど採用例が無いことから説得力に欠ける。
 - ② ちなみにNEXCOは全線インバーター式を採用していない。
阪高などに少し採用例あり。
 - ③ ネパールでの電力供給、メンテナンスに課題あり。
→中堀社長のことは良く知っている。
- 7) トンネルのLED、スチールドアはスペックで縛れば日本製にできるかも。
- 8) 防水シートはEVA+不織布は日本では常識だが、海外（少なくともアジアでは）無い。とても良いのでスペックで縛れば採用できる。
- 9) ネパールの電力事情から、トンネル電源のバックアップシステムが必須になる

と思いますが、それらに本邦技術が生かせるかもしれません。どのようなバックアップを考えておられるでしょうか？

10) 留意すべき環境問題はないでしょうか？それらに本邦技術が活用できるかもしれません。

一粉塵・騒音・振動、トンネル掘削時排水処理（濁水・重金属など）、ずり処分（重金属など）、地盤沈下・地下水低下、地表水低下、自然動植物などなど。

もう少し追加できないか考えてみます。

宜しく願い致します。

能登@マニラ

On 2017/08/08 11:19, Ippei Iwamoto wrote:

能登 様

ナグドゥンガTNの現場条件について、現地からの補足情報を転送致します。

岩本

----- Forwarded Message -----

Subject: Re: Fwd: Re: 【ご相談】スペック・イン資料に係る大使館への共有

Date: Tue, 8 Aug 2017 11:15:04 +0900

From: Yoshihisa Yamashita <a4536@n-koei.co.jp>

Organization: NIPPON KOEI CO., Ltd.

To: Ippei Iwamoto <a5825@n-koei.co.jp>

CC: 佐野 祐一 <a6332@n-koei.co.jp>

岩本課長

日本のAGFを導入（日本ゼネコンの参加を確実にする）することにネ側も合意済です。で問題は どうやって（何をスペックイン？）他を排除するか？です。

NTの特徴には、①幹線道路直下（6~7m）に西坑口（我々はこれを施工経験に使う方針）、②西坑口は逆掘（深い急斜面上にあってアクセスが難しいので避難TNをアプローチTNとして掘削する。）の可能性、③東坑口はカリマティ層（堆積シルト層、砂層を介在、固結（N=10~20）しているが乾燥・湿潤を繰り返すともろくなる）を被りの薄い状態で掘削。

こんなものですね。

今日祭日のため反応が悪いことご容赦ください。

山下

On 2017/08/08 9:21, Ippei Iwamoto wrote:

山下 様

能登さんにも相談しています。

山下さんご指摘のとおり、注入式長尺先受工法（長尺鋼管フォアパイリング）はトンネル工事をしている国であれば世界中何処にでもある工法ですので、日本には施工法や材料を工夫した様々なAGFがあることを説明する必要があるのではというご意見です。例：地下水が多く湧水が懸念されることから、〇〇機械や××注入材を用い、流れのある地下水の地山に対しても的確にAGFを施工することが可能である。などなど。

理由付けを考えて下さるといことなので、それに必要な、現地の具体的な条件（地形・地質・水文（湧水可能性））をお伝えしたいと思います。プロポーザルは送付しましたが、他に材料があれば共有頂けないでしょうか。

岩本

On 2017/08/07 16:43, Yoshihisa Yamashita wrote:

FYI

----- Forwarded Message -----

Subject: Re: 【ご相談】スペック・イン資料に係る大使館への共有
Date: Mon, 7 Aug 2017 14:31:08 +0900
From: Yoshihisa Yamashita <a4536@n-koei.co.jp>
Organization: NIPPON KOEI CO., Ltd.
To: Yuichi Sano (佐野 祐一) <sano-yc@n-koei.jp>

佐野部長

NKからは添付を渡しています。口頭で類似工法が多く「AGF工法の経験」では縛れないのでは？と疑問を投げかけています。

言葉の問題のように思います。プロジェクトで基準書とする予定の「2016年制定 トンネル標準示方書、土木学会」にはAGF工法という工法名の記述はありません。「長尺フォアパイリング」の一工法として「ドリルジャンボで施工できる工法と専用機を使うもの」ドリルジャンボで施工できる工法に「拡幅するタイプと無拡幅のタイプ」さらに「充填式と注入式」があるとしています。

JICAさんは説明資料でAGF工法とか長尺先受け工法とか通称名をつかっていますが、正式には「ドリルジャンボを用いて施工した鋼管継ぎ足しによる注入式長尺フォアパイリング工法」と言うのが正解と思います。

「ドリルジャンボを用いて施工した鋼管継ぎ足しによる注入式長尺フォアパイリング工法」で縛れると思いますが、ここまで修飾語が多いと雨あられの「なぜ？」の批判にさらされることになると思います。ここがJICAの懸念と思います。

山下

On 2017/08/07 9:07, Yuichi Sano (佐野 祐一) wrote:

山下様、
ご連絡ありがとうございます。
いただいた資料を見ても、なぜ、JICAがAGFで縛れないと懸念したのかわかりかねます。
口頭やメールなどでNKJVから進言されたのでしょうか？
佐野祐一

差出人: Yoshihisa Yamashita (山下 佳久)
送信日時: 2017年8月6日 23:38:06
宛先: Yuichi Sano (佐野 祐一)
件名: Fwd: RE: 【ご相談】スペック・イン資料に係る大使館への共有

佐野部長

背景理解のため転送します。JICAさん悩んでおられるのをご理解のうえ対応をお願いします。5月15日付の本邦技術活用方針に関する資料をお送りした後の反応です。取り扱い注意をお願いします。

山下

----- Forwarded Message -----

Subject: RE: 【ご相談】スペック・イン資料に係る大使館への共有
Date: Mon, 22 May 2017 15:38:21 +0545
From: Naoki Nishimura <Nishimura.Naoki@jica.go.jp>
To: 'ejec鷺尾 寛' <washio-sa@ej-hds.co.jp>, 'Yoshihisa Yamashita' <a4536@n-koei.co.jp>
CC: '江澤 秀文' <a7798@n-koei.co.jp>

鷺尾さま、山下さま

お忙しい中、迅速なご対応頂きまして、誠にありがとうございました。心からお礼申し上げます。他方、JICA内でも慎重に検討しましたところ、検討段階で詳細な情報についてはやはり大使館・外務省には出さない方針に転換しました。

①仮に、「AGFのみでの本邦企業縛りは難しい」というメッセージを与えると大使に対して正直ベースでご説明するのは問題ないのですが、

これが外務本省まで逆流すると「L/A調印前の議論はなんだったのか」という反応がある恐れがありSD道路の承諾に影響を及ぼすと考えられます。

- ②生煮えの案が外務本省・国交省に渡ると、揚げ足を取られ、「ナグダウンガの本邦企業縛りは困難。SD道路も承諾不可。」という論理展開がなされる恐れがあります。

以上から、今後は昨年中のインフラ・モニタリング委員会時にJICAが説明した方針を基本として大使にご説明しようと思います。7月頃までにスペックインのあり方がかたまり、誰からつつかれても痛くもかゆくもない状態になれば、これを大使館、外務省に説明しようと考えています。

このたびはお手数をおかけして申し訳ありませんでした。引き続きどうぞよろしくお願い致します。

JICA 西村

-----Original Message-----

From: eiec鷲尾 寛 [<mailto:washio-sa@ej-hds.co.jp>]
Sent: Monday, May 22, 2017 2:13 PM
To: 'Yoshihisa Yamashita'; 'Naoki Nishimura'
Cc: '江澤 秀文'
Subject: RE: 【ご相談】スペック・イン資料に係る大使館への共有

山下 様

鷲尾@（株）エイト日本技術開発です。
いつもお世話になっております。

作成しました。

添付いたします。

主要な、資料1と3は付けましたので、3枚になります。

宜しく願いいたします。

なお、前の原稿は、パブリック、EJECのフォルダにあります。

宜しく願いいたします。

負けるな熊本。がんばろう九州。
2017年5月1日に以下に移転しました。

株式会社 エイト日本技術開発

執行役員 九州支社長
鷲尾 寛(ワシオ サトシ)

九州支社
〒812-0018 福岡市博多区住吉3-1-80
TEL 092-686-9941 FAX 092-686-9945
E-Mail: washio-sa@ej-hds.co.jp

-----Original Message-----

From: Yoshihisa Yamashita [<mailto:a4536@n-koei.co.jp>]
Sent: Monday, May 22, 2017 11:31 AM
To: Naoki Nishimura
Cc: 鷲尾九州支社長; 江澤 秀文
Subject: Re: 【ご相談】スペック・イン資料に係る大使館への共有

西村様

最終ワードファイルが鷲尾の手元にあるため私の手で対応することができません。少々お待ちください。
山下

On 2017/05/21 21:58, Naoki Nishimura wrote:

江澤さま、山下さま

平素よりお世話になっております。ナグドゥンガのスペック・インに関しまして、大使館より方針に関して簡単にまとめた資料の提出を求められております。

別添、本邦技術資料に関し特に言及して欲しくない点などはございませんでしょうか。もしも可能であれば、大使館に見せられる形で1枚紙程度におまとめ頂ければ大変ありがたいのですが、お願いできますでしょうか。（もし明日中のご対応が難しいようでしたら当方にて改訂して大使館に提出したいと思います。）

お忙しいところ恐れ入りますがどうぞよろしくお願い致します。

Naoki NISHIMURA (Mr.) 西村直紀
Representative, Nepal Office
Japan International Cooperation Agency (JICA)
Tel: +977-1-442-5636 (ex: 236)
Mobile: +977-98510-35981
3rd Floor, National Life Insurance Building, Lazimpat, Kathmandu,
Nepal

添付ファイル:

Item for application of STEP.docx

26.7 KB

2018年6月期部内研究開発第2四半期進捗状況報告書_トンネル本邦技術_森谷_180115.xlsx

43.3 KB